

あとがき

『立命館 史資料センター紀要』第二号をお届けします。

今号は、学園史に関わる研究論文とともに、立命館学園のアイデンティティに関する史料を掲載しています。

立命館とともに歩んだ「広小路学舎」の誕生から閉校までの事歴や、京都法政学校から二〇一八年にいたる「学制推移表」、そして私学立命館のアイデンティティの根幹となる「基礎知識」です。

「広小路学舎八〇年」では、勃興期の土地取得や経営の苦労、その後少しづつ増築してゆく姿が、「学制推移表」では、二〇〇〇年頃から急速に拡充されていった教育組織の姿がお分かりになると思います。

「基礎知識」は、まだキャンパスが広小路、衣笠と北大路だけだったところは、先輩や教員からの伝承、キャンパスそのものがかもし出す雰囲気を通じて「アイデンティティ」を自然と学んできたものですが、二大五附属校一〇キャンパスとなった現在、もはや自然に学ぶのは困難になっています。

そのため、学園すべての関係者に向けて、参考資料として掲載したものです。

「基礎知識」の記事には、もう一人大切な方が抜けていますが、それはまた次号以降で。

二〇一九年三月

立命館 史資料センターオフィス